

＜札幌市 白石区役所 保健支援係 様＞

上映日：2024/9/28(土) 場所：白石区民センター(北海道札幌市白石区)



若い世代や当事者も参加。感動と気づきが広がり、チームオレンジへの一歩に。

●上映会を開催するに至った経緯を教えてください。

これまで認知症家族の方向けのイベントのみ行っていましたが、R6年よりチームオレンジの活動が開始したため、当事者の方やサポーターとなりうる地域住民の方に興味を持ってもらいイベントを開催したかったためです。幅広い住民層、特に若い世代にアプローチするため上映会を選びました。

また、映画上映1か月後に認知症サポーター養成講座を設定し、映画を通して認知症について興味をもった方をチームオレンジへつなげる目的もありました。

●実行委員会は、どのようなメンバーでしょうか？

認知症推進員(区認知症担当班)、オレンジコーディネーター(包括支援センター)です。

●後援などをどのように依頼し、どういった協力を得られましたか？

上映会開催を周知する中で認知症カフェ職員からお声がけいただき、当日のご協力をお願いしました。その他、オレンジサポーターの方にもご協力いただき、当日は認知症のご家族を介護した経験をもとに地域で支えあう必要性についてお話をいただきました。

●資金はどのように捻出しましたか？

区の認知症支援に関する予算からです。

●地域の方や関係者にどのように告知をしましたか？

区の広報誌に告知を掲載、A4・1ページの特集でしたが申込数はふるわず…。一方、区や包括職員で地域の健康フェスタや民生委員が集まる会で直接告知をし、その場で申込をとったところ申込数が一気に増えました。友人と一緒に申込をされる方も多くいました。70～80代という年齢層を考えると、直接申込が効果的だったのかもしれませんが。

●上映会当日の様子や反響を教えてください。

上映中、涙をぬぐわれている方も多くいて、上映会が終了すると会場から自然と拍手が起こりました。「感動した」「色々な世代の人に観てもらいたい」という声が上がりました。そのほか、「自分もいずれ認知症になるかもしれないと思い、身近に感じた」「悲惨な物語かと思ったら違った。明るく人生を送る姿に驚いた」と、認知症当事者の方を意識した感想があがっており印象的でした。認知症当事者の方からは「自分と重ねて観てしまいました」という感想もありました。

●今回の活動を通じて、地域作りや今後の活動に繋がりましたか？

上映会終了後に、映画の中でも出てくる認知症サポーター養成講座の申込受付を行ったところ、約2割の方から申込がありました。加えて、半数の方から、今後認知症に関するイベントや情報があれば教えてもらいたいと連絡先登録をいただきました。予想以上の申込・登録数だったため映画の反響を強く感じました。

また当日協力していただいた認知症カフェとは上映会後の認知症サポーター養成講座でも講師としてご協力いただけることになり、上映会が新たなつながりを持つきっかけとなりました。

●上映会を開催してみたいかでしたか？

保健師が支援している認知症の方がいるご夫婦から申込がありました。軽度認知症の本人は認めたくない思いが強いため、社会資源や介護保険にはつながらず、自宅でふさぎ込んでいました。しかし、ドラマや映画がお好きな方だったためか、不思議と上映会イベントに参加いただいたのです。アンケートには「自分も思い当たることがあった」と書いてあり、認知症の自覚を素直に表現されていることに支援者として非常に驚きました。映画をみた家族から認知症サポーター養成講座への申込もあり、上映会を開催して良かったと強く思いました。

●今後、上映会を開催される主催者の皆さんに向けて、メッセージをお願いします。

認知症当事者の方、ご家族の方、認知症について知りたいと思っている方、介護福祉関係者の方、すべての方に響くところがある映画だと感じました。映画という住民にとって馴染みのある比較的敷居の低いコンテンツでメッセージが伝えられるのはとても効果的だと思います。ぜひ様々なところで上映していただきたいです。

ご担当者：根田華衣さん